



# Press Release

公益財団法人 JR 西日本あんしん社会財団  
〒530-8341 大阪市北区芝田二丁目 4-24  
TEL 06-6375-3202 FAX 06-6375-3229

## 平成 29 年度公募助成の 助成先が決定！ 贈呈式を開催！

### 平成 29 年度公募助成（活動及び研究） 助成先（活動団体・研究者）が決定しました 助成先に対する贈呈式を開催します

～身近な「いのち」を支える活動・研究を応援します～

#### ○応募及び選考結果

JR 西日本あんしん社会財団では、平成 29 年度も「安全で安心できる社会」の実現に向け、心身のケア、防災、救急救命、事故防止など身近な「いのち」を支える活動及び研究を広く募集しました。その結果、活動助成 68 件、活動助成（特別枠）26 件、研究助成 58 件の計 152 件のご応募をいただきました。

ご応募いただいた全ての案件について、当財団の事業審査評価委員会において厳正な審査を実施し、助成の趣旨に合致した非常に優れた応募が多数寄せられたことから、59 件、5,112 万円の助成を行うことを決定しました。今回から、平成 26 年広島市土砂災害に関する被災地・被災者支援活動に関し、広島県に拠点がある団体を新たに募集対象に加えましたが、4 団体が選定されました。近畿 2 府 4 県以外に拠点を持つ団体に対する初めての助成となります。

	応募件数	助成決定		
		件数	金額	採択率
活動助成	68 件	32 件	1,854 万円	47%
活動助成（特別枠） <sup>注</sup>	26 件	13 件	887 万円	50%
研究助成	58 件	14 件	2,371 万円	24%
合計	152 件	59 件	5,112 万円	39%

注 「活動助成（特別枠）」は、東日本大震災や平成 23 年台風 12 号、平成 26 年広島市土砂災害の被災地・被災者支援に関する活動を指します。

※助成期間は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの 1 年間です。

※各助成先の助成対象テーマは、別紙 1 「『平成 29 年度公募助成（活動及び研究）』助成先一覧」をご参照ください。

※事業審査評価委員会における審査状況の詳細及び審査総評は、別紙 2 「『平成 29 年度公募助成（活動及び研究）』の審査結果について」をご参照ください。

#### ○贈呈式について

平成 29 年 3 月 23 日（木）15 時 00 分より、ホテルグランヴィア大阪にて、助成先の皆様にお集まりいただいて「平成 29 年度公募助成贈呈式」を開催します。目録の贈呈、受け取られた方からの決意表明等を予定しています。

#### <取材について>

贈呈式の取材をご希望される場合は、3 月 21 日（火）17 時までにご連絡ください。

JR 西日本あんしん社会財団事務局 TEL:06-6375-3202



（平成 28 年度公募助成贈呈式）

活動助成	活動名称	団体名	主な活動内容
	普段から社会的弱者を見守るためのコミュニティ生成型防災事業の実践	生きる力を育む研究会	子ども、高齢者、障がい者等の社会的弱者を守るためのコミュニティ再生や地域リーダー育成を目的に、避難訓練等を行うワークショップを開催する。
	災害時要援護者支援活動/稲野町と隣接地域社会と地域教育機関のコラボレーション ステップ3	稲野自治会	災害時の要援護者支援活動の定着とレベルアップを目的に、隣接地域社会や近隣学校とともに防災講演会や合同防災減災訓練を実施する。
	駅を拠点にした災害時被災者支援ツールの制作実装と協力関係づくり	特定非営利活動法人インターナショナル	大規模災害に備えた駅を拠点とした地域防災コミュニティの形成を目的に、被災者支援ツール(避難マップと会話支援)づくりとワークショップを開催する。
	病院主催による遺族会の開催	angel heartの家族の会	看護スタッフが、日々「いのち」に対する意識を高め、患者遺族が自分自身のグリーフを見つめる機会につなげるため、グリーフケアについての講演会を企画開催する。
	子どもとシルバー世代の防災訓練～小さな私たちにできること～	NPO法人エンゼルネット	子どもや高齢者を対象に、読み聞かせのための教材を使用した「こころの授業」の開催、またAEDの使い方等の見学を通して、防災救命の啓発を行う。
	被災地でリハビリテーション支援活動を行うための人材育成と組織作り	大阪府大規模災害リハビリテーション支援研究会	大規模災害時に平時と同様のリハビリテーションが提供され、復興支援ができるように、基調講演会や定例の研修会を行って多くのコーディネーターとリーダーを養成する。
	障害者向けの心肺蘇生法と応急手当の開発と普及	特定非営利活動法人 大阪ライフサポート協会	障がいのある方が心停止に遭遇した際の救命率向上や、日常事故等に迅速に対応できる環境構築のため、障がいに応じて行える応急手当と心肺蘇生法を開発し普及する。
	海洋療法を用いたストレスケア	特定非営利活動法人オーシャンゲート ジャパン	事故や災害、不測の事態により心身のバランスを崩した方に対し、心の専門家や地域支援施設等と連携を図り、海洋セラピー体験を通じてストレスケアを行う。
	グリーフケア	かなしみぼすと	「グリーフ」および「グリーフケア」への理解を深めるために、悲しみを持ったまま行ける場「かなしみぼすと」を定期的に開催し、グリーフケアを実践する。
	不登校の子ども等支援を要する子どもを対象とした地域防災ネットワーク支援活動	関西福祉大学市橋研究室 ボランティア学習グループ	赤穂市内の古民家を活用し、学生ボランティアによる不登校等の孤立化した子どもたちへの適応指導教室の機能拡充や防災講座及び防災訓練等を実施する。
	聴覚障害者のための心肺蘇生法	北区救急ボランティア	聴覚障がい者等、様々な障がい者を対象に、画像主体のテキストや改造した訓練人形を使用し、工夫を加えた心肺蘇生の講習会を行う。
	災害時に活動できる人材育成	救援ボランティア左京	被災時に必要な技能・知識を身に付ける講習を継続的に実施し、災害時に行動できる一般市民を育成、地域の防災対応能力を高める。
	中京三団体災害対策部	京都市聴覚障害者協会中京支部	聴覚障がいへの理解を深め、災害時での適切な支援に結びつけるため、缶バッジの作成や配布(啓発)を行い、災害避難や備えの啓発活動・支援体制の整備を行う。
	水害多発地域における子育て層を対象にした防災教材の開発	公益財団法人公害地域再生センター	過去の災害の記憶を継承して地域の防災力を高めるため、水害多発地域における子育て層を対象にした防災教材を開発し、それを用いた教育を行う。
	電話相談ボランティア、自死遺族のわかちあいスタッフの他団体交流研修	認定NPO法人 国際ピフレンダーズ大阪自殺防止センター	自殺防止活動の持続性を高め、自殺念慮者の心理の理解を深めるため、自殺名所である和歌山県白浜町の三段壁の視察や他団体との交流学習を行う。
	防災知識の向上と防災訓練	潮見小学校区防災会	地域住民が避難所を運営するための力を身につけ、災害対応の知識向上を図るため、避難所運営訓練や地域の防災リーダーを対象にした研修を行う。
	連携・ネットワークを軸とした鍼灸とマッサージによる被災者支援対策	特定非営利活動法人 鍼灸地域支援ネット	災害時の被災者の健康被害を減少させるため、京都府内の鍼灸3団体が統率して各種研修を行い、組織的・計画的な心身ケアが可能となるネットワークを構築し全国へ発信する。
	平成30年「1.17 阪神淡路大震災からの教訓」	特定非営利活動法人 震災から命を守る会	次世代を担う子どもたち自身が命を守り、生き抜いていくことができるように、幼稚園児を対象とした防災イベントを実施し、防災減災意識の涵養を図る。
	「聖和防災ふえすた」「聖和ウォーキングパトロール」	聖和寄り合いまちづくり	ウォーキングパトロール及び防災フェスタの実施により、事故や災害に対する住民意識の向上を図るとともに、いざというときに助け合える地域交流を推進する。
	changeなりきりプログラム～幼児の為の防災教育～	一般社団法人change関西支部	子どもたちの防災への関心を高め、地域防災力の向上を図るため、幼稚園児を対象に、楽しみながら学ぶ防災ミュージカルを各園で実施する。
	慢性期高次脳機能障害者のグループ訓練後におけるフォローアップ及び専門職スタッフへの支援体制づくり	中丹高次脳機能障害者と家族の会「さくら」	自己の障がい認識を深めることや、医療関係スタッフ(作業療法士・言語療法士など)間の支援体制の土台作りをするために、グループワークや講演会等を実施する。
	外国人が災害時安全に避難できるための事業	特定非営利活動法人 奈良国際協力サポーター	情報弱者である外国人が災害時に安全に避難できるよう内容を検討のうえ、有用情報をまとめて英語・中国語・ハングル語へ翻訳した冊子を作成し、学習会を開催する。
	自死遺族サポート	虹玉の会 自死遺族サポート「虹」	自死遺族を支援し偏見を解消することを目的に、知名度の高い講師を招いての講演会や命をテーマとしたコンサートを開催する。
	たかつき川キッズ調査隊 ～川遊び安全マップを作ろう!～	特定非営利活動法人ノート	安全な川遊びの方法や救助方法を体験する学習プログラムや子ども向けAED講習会を実施するほか、子どもと地域住民が協働して「川遊び安全マップ」を作成する。
	家族や愛する人を失った方々を支える。グリーフケア提供者を養成する。	はすの会	自身の振り返りや他者へのケアの方法を学ぶ遺族のためのグリーフに関する勉強会や、医療職や看護学生、葬儀会社社員等といったグリーフケア提供者の研修会を実施する。
	事故、災害等発生時における発達障害児への心理的サポート研修およびトラウマを抱える人のための相談会実施	特定非営利活動法人 発達凸凹サポーターてくてく	保護者等の支援者を対象に、事故災害時等における発達障がい者のパニック軽減の手法について研修会を実施し、地域の防災力を高める。
	児童が取り組む地域防災・減災活動のネットワーク構築	一般社団法人兵庫県子ども会連合会	地域児童や保護者の防災・減災意識の向上を図り、近畿圏内子ども会への防災活動の拡大を目指すため、地域指導者養成の研修会や子ども会へ防災活動ブックを配布する。
	スペイン語圏の住民への防災教育を通じた、災害時に誰もが安心できる地域社会にむけた防災ネットワークづくり	ひょうごラテンコミュニティ	スペイン語圏住民に対する防災意識の喚起や地域社会への参画を促進するため、国内各地で防災セミナーを開催し、スペイン語版防災ガイドブックを作成のうえ全国に無料配布する。
	親子体験プログラム『はじめての防災キャンプ in 奈良』	一般社団法人MintGreen	奈良県市民を対象に、被災時における適切な行動や避難生活に役立つ知識・技術を学び防災意識を高めるため、親子を対象とした一泊二日の「防災キャンプ」を開催する。
	「やさしい日本語」を使った外国籍住民のための防災出前講座、「やさしい日本語」勉強会	「やさしい日本語」有志の会	災害弱者となりやすい在住外国人に防災意識や防災知識を得てもらおうための出前講座を実施するとともに、避難情報等をやさしい日本語に翻訳・活用する勉強会を実施する。
	水害フォーラムキャラバン3	特定非営利活動法人リスクデザイン研究所	水害被災地におけるヒアリング調査やフォーラム等のこれまでの成果をまとめ、各被災地の課題・教訓を比較参照できるわかりやすい成果物を作成・配布する。
	～忘れたい～ 4.25追悼のあかり	忘れたい 追悼のあかり実行委員会	JR福知山線列車事故で亡くなられた方の追悼を行い、皆が思いを共有し命の大切さを語り伝え、事故の風化防止と再発防止につなげる集いを開催する。
	活動助成小計 32件		

「平成29年度公募助成(活動及び研究)」助成先一覧

【活動助成(特別枠)】			(団体名50音順)
活動名称	団体名	主な活動内容	
みんな一緒に勉強するっちゃ！ 石巻子ども学習サポート	アジア子ども基金	石巻市に開設した「子ども未来図書館」で、学習サポートや読み聞かせ会を実施する。また、これまでの軌跡を冊子にまとめ、関西の住民にも情報を伝える。	
ふくしまキッズ2017夏 京都美山プログラム	特定非営利活動法人芦生自然学校	福島の子もたちが豊かな自然の中でのびのびと過ごせる機会として、京都美山の山村集落を拠点に小学生とボランティアが共同生活を行うフリープログラムを実施する。	
原発事故による避難者の見守りと交流活動	一般社団法人関西浜通り交流会	福島県浜通り地域から関西に避難している人々に対し、関西在住の浜通り出身者を中心に構成されたスタッフが、戸別訪問を行ったり、気兼ねなく交流できる場を提供する。	
東日本大震災復興支援こども理科実験教室2017	京都技術士会理科支援チーム	被災した東北の復興に係わる人材や日本を担う優れた理系人材を育成するため、震災地域で「東日本大震災復興支援こども理科実験教室2017」を開催する。	
祇園地区「緊急災害時 子ども119番」避難訓練	祇園地区青少年健全育成連絡協議会※	平成26年広島市土砂災害の経験を踏まえて、災害弱者を地域で守る体制を構築するため、地区内の幼稚園等と連携した訓練を行い、一時避難場所の追加設定を行う。	
土砂災害犠牲者慰霊式典と復興イベントの開催	県営緑ヶ丘・小原山地区土砂災害犠牲者慰霊碑建立推進委員会※	平成26年広島市土砂災害で最も多くの犠牲者を出したこの地区で、犠牲者の慰霊や教訓を伝え、被災住民の心のケアを行うため、慰霊式典や復興イベントを開催する。	
安心社会づくりのための危機対応「傾聴ボランティア」の養成	特定非営利活動法人全日本大学開放推進機構※	平成26年広島市土砂災害の被災経験による精神的ダメージの回復とコミュニティの強化、防災力向上のため、傾聴ボランティアの紹介並びに養成、講演会等を実施する。	
東日本大震災被災地生活基盤再生のお手伝い活動	たかしま災害支援ボランティアネットワーク「なまず」	福島第一原発の影響範囲である南相馬市において、生活者が自宅へ戻るための除染に先立つ障害物の除去作業の支援を行う。	
奈良発東北復興ボランティア	奈良復興地に学ぶ会	被災地の石巻市雄勝町立浜漁港の復興のため、「復興祭」というイベントの支援や立浜漁港で網の手入れ、帆立養殖の縄の準備作業、草刈など漁港の仕事の手伝いをする。	
いのちの大切さ	虹色の音	突然大切な人を亡くされた遺族へのグリーフケアを広島地区にて行う。体験談の語りや音楽療法を通じて、いのち、生きることの大切さを伝え、生きる勇気を取り戻してもらう。	
東南海地震に備えて、楽しく学べる防災教育プログラムの作製と試行	特定非営利活動法人 姫路発 中高生のための東日本災害ボランティア	姫路で、東北の中学生を含む震災体験者の被災体験に関する講演会や災害状況を擬似体験できる防災アトラクションによる知識学習を行い、災害対応力の向上を図る。	
みわのわ 福島県双葉郡こどもサマーキャンプ	みわのわ	福島県双葉郡の子もたちを福知山市三和町に招いてサマーキャンプを実施し、子どもたちの心身の保養を支援する。	
心と暮らしの歩みサポート交流活動	若者活動サポートセンターあおぞら※	平成26年広島市土砂災害の被災者等の孤立防止や災害の風化を防ぎ、地域防災力の向上を図るため、定期交流会や交流カフェイベント、被災地視察・講演会等を開催する。	
活動助成(特別枠)小計 13件			※印は広島県に拠点がある団体

【研究助成】			(研究者名50音順)
研究名称	研究者名	主な研究内容	
脳損傷患者の後遺症プロフィール評価ツールの開発	京都大学医学部附属病院精神科神経科 助教 上田敬太	脳損傷患者の後遺症について認知機能障害の特徴と社会生活上の困難との関連を明らかにし、サービス提供者等が容易にその特性を把握できる情報伝達の仕組みを開発する。	
超小型モビリティを活用した新機構車椅子の基礎研究及び提案	大阪産業大学 工学部 交通機械工学科 教授 大津山澄明	日常生活を含め、災害避難時や災害後における車椅子での移動負担軽減を目的に、超小型モビリティと融合させた有効な動力を有する新機構車椅子を提案する。	
視覚障がい者の歩行支援システムに関する研究	神戸市立工業高等専門学校 准教授 尾山匡浩	盲導犬に代わる歩行支援システムの開発や、標識・看板の認識など様々な機能を拡張できる可能性を広げるため、点字ブロックを自動検出する手法を研究する。	
自然災害時における仏教者の対人支援研究	龍谷大学世界仏教文化研究センター 博士研究員 金澤豊	被災者の苦悩を和らげる実践活動から仏教者独自の役割を明らかにし、他領域の研究者と連携し「仏教者による対人支援研究」方法を結論づける研究を行う。	
救急医療法(仮称)制定に向けてのその内容及び手順に関する研究	(公財) 全国市町村研修財団全国市町村国際文化研修所 調査研究部長 小西敦	救急医療を法的に位置付けるため、現場のニーズ及び国際比較等の観点から文献調査やヒアリングを行い、法律要綱案の形で制定手順とともにまとめ、論文発表する。	
事故・災害等で大切な人を突然に亡くした遺族が死者の生きた証を伝承することの効果	関西学院大学 教授 坂口幸弘	大切な人を突然に亡くした遺族の「死者の生きた証を伝承する活動」に対する捉え方及び活動方法などが、当事者遺族の生きる目的を探るプロセスへ与える影響について研究する。	
古墳および遺跡に着目した災害履歴の抽出と防災まちづくりにおけるその活用方策	神戸市立工業高等専門学校 准教授 高田知紀	自然災害に対する市民への喚起の方法論を提示するため、近畿地方における古墳等の空間的配置と災害リスクとの関係性を明らかにする研究を行う。	
津波避難を想定した列車乗客向け情報配信基盤技術の開発と実証評価	和歌山大学システム工学部 准教授 塚田晃司	列車乗客の津波避難行動に必要な情報を車内放送による音声伝達以外の複数手段で配信可能とするシステム開発と実証評価を研究する。	
実写映像を援用した避難行動学習教材の開発	和歌山工業高等専門学校 教授 辻原治	主体的な避難行動をとる防災教育や環境を整えるため、避難行動学習にAR(拡張現実)を援用し、避難方法について疑似体験学習が可能なシステムを開発する。	
日本の病院看護部の災害への備え意識の基礎的研究	梅花女子大学 准教授 西上あゆみ	病院看護部における災害対策意識や取り組み状況について、病院の背景(地域、災害拠点病院、規模、設置主体など)による対策意識等の違いを調査分析する。	
言語音がわかりにくい高次脳機能障がい者に適した放送音声と付加刺激の工夫	兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授 三谷雅純	言語音のわかりにくい高次脳機能障がい者の実態を聴覚実験や視覚情報の付加の有効性などから検証する。	
山間地域の高齢者住民の生活知を災害時の自助・共助に役立てるための基礎研究	関西大学人間健康学部 教授 村川治彦	大規模災害時に社会システムが機能不全に陥った際の共助コミュニティ構築に役立てるため、山間地域の高齢者が日常育んできた医食住に関する生活知を収集整理する。	
浮遊型照明による3次元照明システムの構築	舞鶴工業高等専門学校 講師 室巻孝郎	災害時の誘導灯などとして活用が期待できることから、複数の照明機器から構成され環境情報に対応して適切な明るさを提供できる照明システムを構築する。	
携帯端末を利用した突発性災害発生の自動検知および避難誘導に関する研究	関西大学 准教授 和田友孝	火災やテロなどの突発性災害にも適応可能な避難誘導に寄与するため、端末保持者の行動分析とそれらの情報を集めた災害発生検知方法及び避難誘導システムを研究する。	
研究助成小計 14件			
<総合計> 59件			

## 【別紙 2】

「平成 29 年度公募助成（活動及び研究）」の審査結果について

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団  
事業審査評価委員会 委員長 白取 健治

「平成 29 年度公募助成（活動及び研究）」に多数の応募をいただき、深くお礼申し上げます。

応募いただいたどの案件も、「安全で安心できる社会」に対する強い思いが伝わってくるものであり、事業審査評価委員会委員一同、一つひとつの申請書を丁寧に拝見させていただき、慎重に議論を重ねながら審査をさせていただきました。

今回、助成対象となった団体や研究者の方々だけでなく、応募いただいた皆様が真摯な取り組みを継続的に行っていくことが、「安全で安心できる社会」の実現につながる道になると、我々は信じています。

### 1. 応募状況

「平成 29 年度公募助成（活動及び研究）」では、募集テーマを「事故、災害や不測の事態に対する備えやその後のケアに関する活動や研究」として募集いたしました。

活動助成及び「活動助成（特別枠）」においては、東日本大震災や平成 23 年台風 12 号災害及び平成 26 年広島市土砂災害を受け、事故・災害時における地域の人々の拠り所としての地域コミュニティの重要性が再認識されていることに注目し、地域での新たな仕組みづくりやネットワーク構築など『地域との連携やつながり』を重視する活動を前年度に引き続き重点対象としました。

また、今回から平成 26 年広島市土砂災害に関する被災地・被災者支援活動に限定して、広島県に拠点がある団体を新たに募集対象に加えました。

募集開始前より、近畿 2 府 4 県の社会福祉協議会や市役所、ボランティア情報センター、NPO 支援機関等をはじめ、広島県内の行政機関やボランティアセンター等を対象にした広報活動を行い、募集期間中には助成に関する個別相談会を大阪や広島で開催するなど、公募助成の内容をより多くの方々に知っていただけるよう積極的な広報活動を展開しました。加えて、大学等研究機関の研究者にもより広く知っていただくため、一部大学への訪問広報活動に新たに取り組みました。

その結果、応募件数は活動助成が 68 件、活動助成（特別枠）が 26 件となり、それぞれ前年を 4 件ずつ下回ったものの、研究助成が前年を 18 件上回る 58 件となりました。結果、合計で前年より 10 件多い 152 件（前年 142 件）の応募をいただきました。

### 2. 審査プロセス

審査は、これまでと同様、理事長から諮問を受け、まず事業審査評価委員会を開催し、審査基準や具体的な審査方法等を確認したうえで進めました。

7 名の委員全員が全案件の申請書をじっくりと読み込み、1 次審査と 2 次審査において全案件について各自で評価を行いました。その後、最終審議の場としてあらためて事業審査評価委員会を開催し、各委員が 2 次審査の評価を持ち寄り、集中的な討議の末、採択案を決定するとともに、その結果を理事会に答申しました。

審査にあたっては、応募資格を満たしているかの確認はもちろんのこと、募集要項に記載がある本公募助成の趣旨に合致することを最も基本的かつ重要な判断基準としながら、「社会的な必要性」、「独創・先駆性」、「計画性」、「経費の合理性」、「地域における連携やつながり」の視点で厳正に審査を行いました。また、特定分野に偏らないよう活動や研究の分野別バランス等を総合的に勘案して、採択案を決定しました。

なお、これまで当財団から助成を受け、今回も申請があった活動に対する継続助成の審査にあたっては、新規案件と同様の視点で審査を行うのみならず、当財団が継続して助成を行う必要性や、今後の発展性、社会に対する影響力を十分に吟味したうえで、採択案を決定しました。

### 3. 審査結果

今回の募集でも、質の高い応募が多数寄せられました。これは、本公募助成が回を重ねながら、地域の関係機関や大学等研究機関への訪問広報活動をはじめ、個別の相談会の開催などの広報活動が実を結び、募集テーマが浸透した表れだと考えています。

最終的には、当初予定していた助成総額 5,000 万円を上回る、活動助成 32 件、1,854 万円（前年 38 件、2,311 万円）、活動助成（特別枠）13 件、887 万円（前年 13 件、886 万円）、研究助成 14 件、2,371 万円（前年 14 件、2,064 万円）、合計 59 件、5,112 万円（前年 65 件、5,261 万円）を採択案件として理事会へ答申いたしました。採択率は、活動助成が 47%（前年 53%）、活動助成（特別枠）が 50%（前年 43%）、研究助成が 24%（前年 35%）となり、全体では 39%（前年 46%）となりました。

#### (1) 活動助成

東日本大震災に代表される災害報道や昨今の異常気象等による防災・減災意識の高まりを受け、防災・減災に関する応募が多く、採択案件も多数にのぼりました。このほか、心身のケアに関する案件も多くの応募をいただき、防災・減災関連に次いで採択いたしました。

#### (2) 活動助成（特別枠）

東日本大震災等の被災地・被災者支援に関する活動については、発災からの時間の経過に応じ、今の段階で被災者が求める活動として、心のケアや復興に関する案件を中心に採択いたしました。

また、今回新たに募集を行った広島県に拠点がある団体からも、復興や防災、心のケアに関する案件を採択いたしました。

#### (3) 研究助成

活動助成と同様に、防災・減災に関する応募が多数寄せられ、当該分野の採択数が多くなりました。また、心身のケア等に関する研究も防災と同数程度採択いたしました。その他、限られた助成金の中で研究分野のバランス等も重視した結果、救命、安全など幅広い分野から本公募助成の趣旨に合致し、社会的必要性が高く、独創的、先駆的な案件を採択いたしました。

### 4. 総評

今回も質の高い、熱意あふれる応募を多数いただき「安全で安心できる社会」の実現に向けた素晴らしい活動や研究に対して助成できることを大変光栄に思います。

昨年と比較すれば、活動助成や活動助成（特別枠）で応募の減少がみられましたが、研究助成に対する応募は前年より 18 件増加しました。これは、これまでの広報活動に加え、一部大学等の研究機関を訪問したことによる結果だと思います。

来年度以降も、引き続き訪問広報に積極的に取り組むとともに、募集要項や申請様式の見直しなど、申請手続に係る改善をあわせて行い、申請者がより応募しやすい環境を整え、さらに質の高い案件の応募が多く寄せられるような工夫をしていく必要があると考えています。

「安全で安心できる社会」の実現は、一朝一夕で達成できるものではありません。「安全で安心できる社会」の実現に向けて真摯で地道な取り組みをされている皆様、そして新しく取り組みを開始される皆様のご活躍をお祈りしております。